

皆さま、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

本日の福音朗読の中で、イエスは、婚宴に招いておられる神に答えることについて語っています（マタイ22・1-14）。神は王にたとえられます。この婚宴には多くの人が招かれていますが、驚くべきことが起こります。選ばれた人が皆、他にやることがあると言って婚宴に来ようとしないのです。その上、無視したり、遠くへ出掛けたり、中には苛立っている人までいます。神は無償で愛情を注ぎ、わたしたちをいつくしみ、ご自分の喜びと救いを与えてくださいます。しかし、わたしたちは度々、神の贈り物を受け入れず、物的な関心事や利害を優先させてしまいます。主が何度も呼びかけても、それがわずらわしいと感じてしまうことすらあります。

神のいつくしみに境界線はありません。それはすべての人に分け隔てなく与えられます。主のたまものであるこの婚宴は、普遍であり、すべての人の為のものだからです。すべての人が主の呼びかけ、主の招待に応える機会を与えられています。特権や、他の人とは違うものを与えられていると感じる権利のある人は誰もいません。このことを知るにより、わたしたちは、自分を中心に位置づけて満足する祭司長たちやファリサイ派の人々のような性格を克服することができます。わたしたちは、神のいつくしみは社会の片隅に追いやられた人々、社会から軽蔑され拒絶された人々にも注がれていることを認識しながら、社会の周縁に心を開かなければなりません。わたしたちは皆、自分たちの小さな教会の中に閉じ込めるのではなく、むしろ教会を神の国の次元にまで広げなければならないと思います。

